

アフターコロナ時代を見据えた経済社会構想検討会議「中間とりまとめ」で示された目指すべき姿

戦略の柱	目指すべき姿
1 産業・経済の振興 ～5G、AI・IoTなど未来技術の活用～	<ul style="list-style-type: none"> ○ デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展やIT人材の育成により、県内産業の業務は極めて効率化され労働生産性が向上するとともに、新技術や新商品の開発が進み、新たな成長産業が育成されていること。 ○ 世界とつながりながら、地域で稼いだお金が地域で回る、持続可能な地域経済圏の形成 ○ サプライチェーンの多元化や工場の自動化の拡充、リモートワークの普及などにより、新しい感染症や災害に対しても柔軟性・強靱性が高まっていること。 ○ SDGs、脱炭素に向けた世界的な動きを見据え、本県産業がいち早く順応し、課題解決型産業が創出・育成されるなど、本県産業が環境分野をはじめとして、日本・世界をリードするトップランナーとなっていること。 ○ DXの推進により、農林水産業の多くが効率的になり、人手不足も緩和され、生産性が向上していること。
2 観光・地域づくり・移住の促進 ～地方分散型社会への転換～	<ul style="list-style-type: none"> ○ デジタルの活用などにより、本県の魅力が効果的に発信され、興味をもった観光客が県外・海外から本県を訪れ、リアルな観光を楽しんでいること。 ○ 地域資源の磨き上げや未来技術の活用、都会的価値観の創出などにより、多くの若者や女性・シニア層等が住み続けたい、訪れてみたいと思える地域づくりが進められ、それらの魅力が効果的に発信されていること。 ○ 上質で多様な観光コンテンツが提供され、「富山ファン（リピーター）」が増えていること。 ○ 魅力的な人の周りには人が集まり、それらの人がさらに人を呼び込み、人が集まる地域 ○ 首都圏等の企業が本県にサテライトオフィス等に移転設置し、また、テレワークやワーケーションなどの多様な働き方が促進され、多くの若者や女性等が本県に移住・定住し、大都市部への一極集中が緩和され、分散型社会が形成されていること。

戦略の柱	目指すべき姿
<p>3 暮らしの充実 ~医療・福祉、教育、文化、交通などの充実~</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 暮らしの中の様々な仕組みや手続きなどがデジタル化・オンライン化されており、利便性が高く、老若男女を問わず、これを日常的な基礎インフラとして活用し、かつ、様々な危機にも順応性が高い社会になっていること。 ○ オンライン医療が普及し、誰もが迅速に、医療を受けることができる体制が整っていること。 ○ 教育のICT環境が整備され、個人個人の学習能力に応じたきめ細やかな教育が提供されるとともに、多様性やシビックプライドを育むプログラムなど本県ならではの魅力的な教育環境が提供されていること。 ○ 5G、AR・VRの活用により、どこにいても臨場感のある文化やスポーツなどを楽しめる環境が整備されていること。また、これによりリアル体験（音楽や絵画の鑑賞など）の価値が改めて評価され、楽しまれていること。 ○ テレワークなど多様な働き方が拡大し、育児や介護をしながらでも働ける環境が整備され、働き方改革が進み、女性の活躍の場がますます広がっていること。
<p>4 デジタルガバメントの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県庁自らが率先してデジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化が図られ、県内企業の模範となっていること。 ○ あらゆる行政手続きがオンライン化され、マイナンバーカードが普及し、必要な行政サービスがいつでもどこでも受けられるなど、利便性が高まっていること ○ すべての県民や民間事業者がデータ利活用による便益を実感できること